

京都市環境審議会 第1回京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録

日 時 平成23年10月31日（月） 午前10時～11時50分
場 所 職員会館かもがわ1階第1会議室
出席者 小幡部会長，板倉委員，外池氏（奥原委員代理），徳地委員，松本委員，村瀬委員，
吉村委員
欠席者 大久保委員，深尾委員

内 容

1 開会

2 委員紹介

3 議題

（1）平成23年度 京の環境共生推進計画評価検討部会の検討内容について

- ・事務局から資料1－1について説明。

（意見なし）

- ・事務局から資料1－2について説明。

（意見なし）

- ・事務局から「はばたけ未来へ！ 京プラン」実施計画（骨子）について説明。

（2）京の環境共生推進計画の進ちょく状況について

- ・事務局から資料2について説明。

（松本委員）p6，「フロン回収量」は注がついて，以前よりわかりやすくなった。

CFC は生産も止まっており，フロン回収・破壊法で今一番問題になるオゾン層破壊物質は空調等に使われている HCFC である。この物質をどう回収・モニターするか，そろそろ検討を始めたほうがいい。

自動車リサイクル法の CFC は CFC12 だと思うが，その回収を見ていくことは重要である。しかし，90 年代半ば頃から温暖化物質の HFC に代わっているので，CFC はほとんどないのではないかな。

環境レポートや施策の書き方だが，オゾン層保護から見ると CFC が減ってきているのはいいことだが，HFC は増加しており，温暖化から見ると HFC の増加はよくない，その関連をどこかに記述しておいたほうがよいのではないかな。

オゾン層破壊物質等の回収における市と府の役割は違うのか，重なっている部分があるのかどうか，教えていただきたい。

また，どのようにモニターしているのかと，HFC の算出方法を教えていただきたい。

(的場環境総務課担当課長) オゾン層保護対策と地球温暖化対策の関係性については何らかの形で整理したい。

(小幡部会長) 代替フロン温室効果が高いことは注記をいれたほうがいい。

(的場課長) 市民向けに示していく中でどういった工夫ができるのか考えたい。

(松本委員) フロン回収・破壊法の対象となる CFC, HCFC, HFC について、市では量的な把握は難しいと思う。方針というか、どういうふうに扱っていくかを検討したほうがいい。

(松本環境企画部長) 府県単位で集約しているので、市レベルで把握できかねる部分がある。

(松本委員) 市レベルで何を指すのかが明確でない。国レベルでは、矛盾した政策はやめようということで、オゾン層と温暖化の相乗効果を狙おうと、非常に明確な政策について議論が進んでいる。

京都市は啓蒙活動を行うのか、モニターするのか、府の補完をするのか、どのように扱うかの方針を明らかにしたほうがいいのではないかな。

(小幡部会長) 整理する必要はあるが、データがないので、どういう方向でいくべきか。何か案はあるか。

(松本部長) 国が目指す方向があれば、京都市もその方向性で施策を実施することになる。その場合、特色が出にくいということがある。

(松本委員) 市町村レベルでの把握については再度調べてみる。

(小幡部会長) 府のデータから推定することは可能か。

(松本部長) 推計は可能である。

(松本委員) 今回のような注で、HFC, HCFC という物質の存在を明記し、どういう関係にあるかを書く、実際に法律では 3 つの物質が対象であるということだけでも書かれるといいのではないかな。

(小幡部会長) HCFC などについて注記していただき、全体を含めた政策を考えていることがわかるようにしていただく。

(小幡部会長) p3、産業部門二酸化炭素排出量は 50%以上減少しているが、産業政策等の面から見てよいのかどうか。

(外池氏(奥原委員代理)) 総量が減ったということなので、各企業の取組が進んだこともあるが、不況ということもあると思う。いいのか悪いのか、どう見ていくのか非常に難しい。

(小幡部会長) 民生・家庭部門は増えている。

(村瀬委員) いったん楽を覚えた人間に我慢をしてもらうというのはなかなか難しい。もったいない精神でいかにがんばれるか。

(小幡部会長) エコ学区を始められたということだが。

(村瀬委員) 「うちエコ診断」の参加世帯を募集したが、自主申告する世帯は 1 軒もなかった。

(小幡部会長) 計画する側とのギャップがある。

(松本部長) 環境家計簿も実施しており、それを今度はエコ学区の取組と組み合わせ、学区自体で省エネしていこうというものである。平成 23 年度は京都市全体で 7%ほど節電できているが、切迫した何か、家計が助かる+αがあると、かなり取組が進む。

(村瀬委員) 夏のエアコン使用を控えたところ電気代が 2,000 円安くなった。金額でのアピールも必要である。また、口コミで広げることも必要である。

ごみ減量は皆さん一生懸命取り組んでおり、だいぶ地域がきれいになった。

(小幡部会長) p8 の進ちよく状況のまとめでは増えた・減ったの事実が書かれているが、その理由もわかる範囲で書いていただきたい。それを受けた議論をしていきたい。

(外池氏(奥原委員代理)) 産業部門二酸化炭素排出量がどのような形で減っているのか気になる。京都はものづくり企業が多いので、産業が衰退し、活動量が減っているのであれば、それは京都市としてはあまりよくない。

震災後の西日本シフトもあり、生産移管が出ていると聞いている。今期に限っての特例、特殊な見方があるのか、産業部局と意見をすり合わせ、政策をきっちり進めていただきたい。(小幡部会長) 市内事業所の海外移転の状況、出荷額の推移などについてもこの部会の中で見ていくべきか。

(的場課長) 基本的には地球温暖化対策推進委員会で議論することになるので、その結果をフィードバックするようにしたい。

(板倉委員) 新幹線鉄道の騒音は、車両対策が進んだのか、防音対策が進んだのか、理由がわかれば教えてほしい。

(臼居環境指導課長) 新幹線騒音については測定地点数が少ないこともあり、細かい理由は正直言って評価しきれていない状況である。今年度は JR が対策を実施した地点の測定を行っている。

自動車騒音については、2~300 箇所ある地点を 5 年周期でまわしており、透水性舗装などで低騒音化しているところはあるが、年によって数値が上がったり下がったりする。点だけでなく面的に評価する作業を現在行っている。

(小幡部会長) 結果がでた段階で報告してほしい。

(徳地委員) 二酸化窒素の排出源は排気ガスがメインだと思うが、エコドライブの推進等を取組をしているが、もう少し原因と結果を強く結びつけて評価しないといけない。長期的目標 2 はモニタリングの結果、良かった・悪かったに終始しており、市民の関与が少ないような気がする。環境レポートでは、市民の行動の結果どうなったのかがわかるようにしたほうがよい。

現在の二酸化窒素濃度の高い状態が続くと、雨水が酸性となり、地下に浸透すれば地下水の水質もいずれ悪化することが予想される。

(松本部長) 達成率が低いのは基準を厳しく設定していることもある。京都市自動車環境対策計画を策定しており、環境レポートでは工場・事業場対策も含め記述したい。

(小幡部会長) 二酸化窒素と地下水水質のメカニズムについても記述する必要があるか。

(徳地委員) 書く必要はないが、そういったことも含めた啓蒙を進めてほしい。

(吉村委員) 緑が増えているとのことだが、公園が増えているのか。

(的場課長) 緑被率を 1%増やすといっても面積に換算すると 175ha になり、たいへん高い目標である。平成 23 年 5 月に策定している京のみどり推進プランでは緑視率という新たな目標も設定しており、緑化の箇所についても市民からの意見を反映する、そういったいろいろな取組を進めている。

(吉村委員) 風致地区で家を建てる時に 25%の緑を担保することになっているが、特に助成があるわけでもなく守っていない人もいる。強制力はないと思うが、指導等はされているのか。

(小幡部会長) どんな指導をしているのか。建築確認などは行っているのか。

(松本部長) どういったペナルティがあるのかも含め、調べて報告する。

(吉村委員) 二酸化炭素を減らすという意味でも緑は増えたほうがいいと思う。

(村瀬委員) ブロック塀を生垣にするということもある。

(吉村委員) 生垣には助成が出ている。

(村瀬委員) そのあたりも含め、皆さんに協力していただけるようにしたほうがいいかと思う。

(小幡部会長) 今日は審議を深めるよりも、広く意見をいただいたということにしたい。

(3) その他

- ・事務局から資料3について説明。

(意見なし)

4 閉会